

徳島市立元氣に行進 開会式

きょう帝京長岡と初戦



元氣よく行進する徳島市立の選手
駒沢陸上競技場

サッカー

全国高校選手権

第95回全国高校サッカー選手権は30日、東京・駒沢陸上競技場で開幕し、開会式後の1回戦で初出場の関東第一（東京B）が優勝経験のある野洲（滋賀）を1-0で破り、2回戦に進んだ。関東第一は劣勢を耐え、後半に富山がPKを決めた。

気持ち高ぶった

○2年ぶりの出場となる徳島市立は笑顔を見せながら入場行進し、スタンドの歓声に手を振って応えた。旗手を務めた佐野主将は「全員で大きな声を出して歩けた。気持ちが高ぶった」と興奮した様子で話した。

1回戦の帝京長岡は攻撃力が高く、初戦に勝つ

た。

開会式では前回大会優勝の東福岡を先頭に、都道府県大会を勝ち抜いた48代表校（東京2校）が入場行進した。2年ぶり15度目出場の徳島市立は40番目に登場。選手30人は3年ぶりの全国1勝への決意を胸に、元氣よく行進した。

選手宣誓は青森山田の住永主将が務め、11月に航空機墜落事故でシャペコエンセ（ブラジル）の多くの選手が犠牲になったことなどに触れ「この

場には、立ち上がりから守備陣が踏ん張れるかが鍵を握る。DF橋本は「相手の技術、スピードは脅威。中央を突破されないようにしたい」と気を引き締める。前線でゴールが期待されるFW水田は「一点を取れると信じてプレーする。1年間磨いてきたパスサッカーで勝ちたい」と意気込みを語った。

（まとめ・藤島慶祐）

ためには、立ち上がりから守備陣が踏ん張れるかが鍵を握る。DF橋本は「相手の技術、スピードは脅威。中央を突破されないようにしたい」と気を引き締める。前線でゴールが期待されるFW水田は「一点を取れると信じてプレーする。1年間磨いてきたパスサッカーで勝ちたい」と意気込みを語った。

（まとめ・藤島慶祐）